

ソ連東部の稀少鳥類数種の生息状況と保護¹V.M. Khrabry²訳：藤巻裕蔵³

ソ連北東部と極東のベーリング海からインジギルカ川・オルダン川・ゼヤ川分水嶺東部の沿海地方南端部までに生息する稀少種と絶滅の危機にある鳥類の生息状況について簡単に述べる。

わが国東部の広大な地域には約300種の鳥類が生息している。その大部分は生息数が多いか普通の種である。約100種が東部では局地的に分布しており、普通これらの種は東部ではそれぞれの種の主要な分布域の北または東の周辺部に生息している。65種が絶滅の危機にあり、ソ連とロシア共和国のレッド・データ・ブックにあげられている。これらの鳥類約30種については、生息数の減少の原因に関心をもたれており、その生態に関する新しい報告も出されている。わが国東部の多くの稀少種について、種とそれらの生息環境の保護をめざした具体的対策がとられている。

しかし、非常に多くの種、とくに人間生活に直接関係のない種は注目されておらず、絶滅のおそれが残ったままである。これらの種の生態はごく一般的なことが明らかにされているだけで、したがってそれらの保護のための科学的根拠のある対策をたてる基礎がない。このように、あまり研究されていない種で、明らかに絶滅のおそれがあり、関心をもつ必要のある鳥類がいる。

ここでは私は、ソ連で繁殖し日本で越冬する稀少種について、最近得られたいくつかの興味あることについて話す。

コウノトリ

繁殖域はアムール川下流・中流域、ウスリー河流域、ハンカ湖沿岸低地、プリモーリエである。これまでの生息数に関する資料によると、700つがい以上に達する。本種の保護はよく行なわれており、繁殖域内には9か所の自然保護区がある。

コクガン

コクガン（太平洋の亜種）は、ハタング湾とレナ川デルタからチュコトのアナジール湾までの大陸部沿岸ツンドラに生息している。最近10数年間に生息数が減少した結果、比較的連続した分布域が局部的になり、所によって毎年繁殖しなくなった。ソ連における全数は明らかではない。繁殖地域ではどこでも稀である。コクガンが数年間にわたり数100

1989年10月10日受理

1. 第4回ソ鳥類保護シンポジウム講演（1989年2月4日、東京）
2. Zoological Institute, Academy of Sciences, Leningrad, V-164, USSR.
3. 〒080 帯広市稲田町 帯広畜産大学。

羽で繁殖している唯一の場所は、現在ウランゲル島である。コクガンは哺乳類、とくにホッキョクギツネの捕食圧に対して非常に敏感に反応する。このことと関連して、繁殖に適した場所に対して選択性が強く、猛禽類、とくにシロフクロウの巣の近くに営巣する。例えば、ウランゲル島ではレミングの少ない年にシロフクロウは繁殖せず、コクガンも繁殖しない。ソ連ではこの亜種の狩猟は禁止されている。

サカツラガン

最近までオホーツク海沿岸南部やサハリン沿岸から西はアルタイ、北はミヌシンスク盆地、ザバイカル、アムール川流域、北東はウジ川やアヤン川まで繁殖していた。現在確実に繁殖しているのは、アムール川流域下流のウディル湖地域とザバイカルのトレイスク湖だけである。ほかの地域の繁殖地は消失した。ウディル湖地域では約150つがいが繁殖し、トレイスク湖では1976年に6巣がみつかった。サカツラガンの数の減少は、繁殖地の産業利用、法律に反した狩猟、乾燥した地域での湿潤地の減少で説明できる。ソ連での狩猟は禁止されているが、特別な保護対策はとられていない。

コハクチョウ

コハクチョウははっきりと独立した西と東の個体群に分かれており、多くの分類学者はこれらを亜種にしている。西の個体群はカニン半島からレナ川デルタまでの地域に生息している。これらは主に西ヨーロッパで越冬する。東のグループはレナ川の東からチャウン湾までのツンドラに生息している。分布域の東部に生息しているコハクチョウは日本と中国で越冬する。コハクチョウは湖沼の多い湿潤なツンドラ、また河跡湖や支流のある川の下流部に生息する。営巣に選ぶのは、完全に開けたツンドラや水域の岸で乾燥した小高い狭い場所である。生息数の多い地域ではそれぞれのつがいは互いに500~700m、しばしば数kmの間隔で営巣している。ある場合には数年間にわたって古巣を利用し、またある場合には古巣から50~500mに新しく営巣する。東のグループは減少の傾向にある。もっとも普通に生息しているのは、フロマ川・インジギルカ川間の北東部、沿岸のツンドラである。チュコトで生息数が多いのはチャウン川デルタだけで、10km²に1~2羽である。チュコト西部のツンドラに生息するコハクチョウは日本で越冬する。ソ連におけるコハクチョウの生息数は、主に人間の産業活動のために減少している。この種の狩猟は禁止されている。この種の分布域内にはいくつかの自然保護区と禁猟区がある。

アカハジロ

非常に生息数が減少している稀少種で、極東大陸部の南部と隣接する中国東北地方や朝鮮半島の固有種である。ソ連でこの種の分布域はアムール川流域の西はシルカ川中流とアルグン川沿いから東はウスリー川沿いとハンカ湖までである。アムール川下流沿いではウディル湖に分布する。沿海地方ではハサン地域の湖沼で繁殖する。ユリー・シブネフの報告によると、年によってここでは普通種である。繁殖期にシホテ・アリン山脈東側の河川や湖沼ではみられない。アムール川流域におけるアカハジロの分布北限は明らかではない。繁殖場所は水草や水辺植物の豊富な小さな湖沼である。生息数の減少は地域の産業開発、とくに水田のための低地の乾燥化による生息環境の減少と関連している。

ハシジロアビ

ハシジロアビは稀で、局地的分布をする種である。コラ半島からチュコトまでのツンドラで繁殖する。たぶんオホーツク海沿岸北部にいくつかの生息地が残っている。もっとも

特徴的な営巣環境は、比較的大きなツンドラの湖沼である。ハシジロアビは営巣にしばしば低い突き出た洲や中洲を選び、ここでは毎年生息している。全体の生息数は明らかではない。少数の繁殖地では、その生息密度は普通100~200km²に1つがいで、ごくまれに100km²に12~16つがいである。ハシジロアビの繁殖期が長く、ほかのアビ類より早く繁殖を開始せざるをえないので、水位の突然の上昇、氷の移動、その他の要因によって巣がよく壊される。ロシア共和国のレッド・データ・ブックにあげられている以外に、特別の保護対策はとられていない。

ツル類

ご存じのように、ソ連と日本はマナヅルとナベヅルの渡りで深い関連がある。この2種は絶滅のおそれがあり、国際自然保護連盟とソ連のレッド・データ・ブックにあげられている。マナヅルはソ連で繁殖してはいても、主な繁殖分布域の最北部にいただけであるが、ナベヅルはソ連固有の種である。今日、これらのツルに関連する状況は様々である。ナベヅルは低山のタイガ地帯にある奥深いコケ湿原（マリー）に生息しているために、生息地に人が訪れることは稀で、産業活動とあまり関係なく、人間側からの強い圧力を受けておらず、このことについてはビキンにおける昨年の私たちの共同調査のときにも確認している。このほか越冬地ではよく保護されており、そのため最近では生息数の増加が認められる。またこの種の保護のために、ソ連ではナベヅルのための自然保護区の設立が可能な場所の検討が行なわれている。候補地としては、ビキン川中流左岸のマリーがある。マナヅルが生息しているのは、ナベヅルと違って主に川沿いや湖沼周辺のトウヒ・ヤマナラシ・カンパ類の小さな林が散在する草の多い湿原や、ノガリヤス・スゲ類のヤチ坊主のある湿潤な草原である。このような生態をもつことが、ソ連において生息数が少ない理由である。現在、繁殖地では、土地改良や農業活動の影響により生息環境が著しく変化している。乾燥した土地は穀類の耕作に使われ、湿潤地では水田が多くなり、多くの地域では家畜の放牧や採草が行なわれている。とくに繁殖地で問題なのは、農業における春と秋の火入れ、山火事である。また旅行者による攪乱の増大もよくないとされている。保護のために、ヒンガン自然保護区とそのアルハラ支所ができ、多くの州立禁猟区ができている。

猛禽類

猛禽類のうち数種はソ連を繁殖地や越冬地にしている。たぶんもっとも興味あるのはオオワシであろう。オオワシは、わが国東部の固有種である。その繁殖地はカムチャツカのコリャーク高地南部から、オホーツク海沿岸、サハリン北部である。繁殖生態はソ連の多くの研究者によって詳しく研究されており、不定期刊行物に発表されている。今年オオワシの繁殖生態に関する共同調査が計画されているので、日ソ共同調査が予定されているアムール川下流域における生態についてやや詳しく話す。アムール川下流域におけるオオワシの生態に関する論文は、モスクワ大学の科学業績論文集に発表されたばかりである。アムール川下流域のウディル湖、キジ湖、オレリ湖、オルリク湖、チョルトボ湖地域には約80~90つがいのオオワシが繁殖している。もっとも多いのは、オレリ湖周辺の約20~25つがいである。この湖周辺の巣は岸沿いや川沿いに均一に分布しており、川沿いでは20~30km上流までいる。オオワシが春にアムール川下流に現われるのは、4月初めである。これらはすぐに巣にやってくる。1つがいの繁殖なわばりには互いに50~500m離れて2~3巣がある。となりのつがいの巣との間隔でもっとも近いのは0.7kmである。巣のまわ

りを守るのは半径約0.5kmで、ここからはほかのオオワシを追いはらう。4月末から5月初めに1~2卵を産み、5月末から6月初めにふ化する。アムール川下流域の湖沼周辺でオオワシの繁殖つがい数が非常に多いのは、この地域があまり開発されていないからである。しかし、非常に入りにくい水域に人々がモーター付きの舟で入りこむことによる攪乱が、大陸部のオオワシの個体群に悪影響をおよぼす。大きな村落の近くにある湖沼では、オオワシが少ない。アムール川下流域でオオワシ個体群の安定に二次的に影響する人為的要因としては、その上流域における有用鉱物資源の採掘による産卵河川の汚染をあげるべきである。

最後に、ソ連の東アジアの鳥類の実際上の利用と保護について若干述べる。最近20年間に水鳥、とくにガンと淡水カモ類が非常に減少した。この現象は少数の地域にとどまらず、北東アジア全域でみられる。このことは、管理されていない狩猟、とくに各種の調査や仕事で入る人々による狩猟、春と夏に、とくにツンドラ地帯でシカの群れが通るときの巢の破壊に原因があり、またハバロフスク地方や沿海地方における産業活動にもよる。しかし、この現象の主要な原因は広範囲にわたっており、ソ連国内でも国外でも、渡り中や越冬地における大量の狩猟、越冬地や渡り途中の休憩地の減少と関連がある。このような状況の改善は、もちろん各地の保護対策も含め、非常に広範な対策があってはじめて可能となる。

すべての猛禽類は以前に比べて非常に減少したが、このことも北東シベリア全域にわたってみられる。その原因はまったく不明である。ソ連の北東部と極東に生息する猛禽類のうち、5種がソ連のレッド・データ・ブックにあげられている。

これらの問題で非常に重要で実地的な対策は次のとおりである。

- 1) 現行の狩猟に関する法律を厳守すること。
- 2) 渡り途中や越冬地における現実的な、また望ましい狩猟対象範囲を考慮した渡り鳥の捕獲基準の作成。
- 3) 多くのガンやカモ類が繁殖している場所をシカの群れが通過しないように、春・夏(5月末~6月)のシカの群れの通り道をつくること。
- 4) 鳥類の繁殖コロニーとその近くにいかなる舟も上陸することを禁止し、これらのコロニーの1km以内での飛行を禁止すること。
- 5) 自然保護区と鳥類の禁猟区の設定。

Status and protection of rare birds in the eastern part of the USSR

V. M. Khrabry¹

(Translated by Yuzo Fujimaki²)

Of about 300 species of birds occurring in the eastern part of the USSR, 65 species are rare or endangered and are included in the Red Data Book of USSR.

Seven hundred pairs of the White Stork breed along the lower and middle reaches of the Amur River, and the Ussuri River, in the lowland of Lake Khanka and Primorye. The Brant occurs along the coastal tundras of Khatanga Bay, and from the delta of the Lena River to Anadyr Bay. Vrangal Island is one of important breeding grounds. At present

about 150 pair of Swan Geese breed only in the Lake Udyr area, lower reaches of Amur River. Besides, 6 nests were observed in Lake Toreisk, Transbaikal, in 1976. An eastern population of Whistling Swans breeds from the Lena River to Chaun Bay and winters in China and Japan. They are decreasing in numbers. The Baer's Pochard is a rare bird and breeds in Lake Udyr and lakes of the Khasan area. The Yellow-billed Loon breeds rarely in tundras from Kola Peninsula to Cukotsk. Population densities are 1 pair per 100 to 200 km², rarely 12 to 16 pairs per 100 km². Hooded Cranes occur in "mar" (bog surrounded by forest) along rivers and their breeding habitats are well conserved. Habitats of the White-naped Crane are bogs with sparse trees and wet grasslands. The cranes are decreasing in number because of development in their habitats. Steller's Sea-eagles breed from Kamchatka to coastal area of Okhotsk Sea, and in Sakhalin. At lakes along lower reaches of Amur River 80 to 90 pairs breed.

Important measures for protection of rare birds are 1) enforcing strict hunting laws, 2) creating a hunting norm for migrating birds, 3) creating paths for deer to prevent their passage through nesting sites of waterfowl, 4) prohibiting boats from approaching breeding colonies, and plane flight within 1-km radius, and 5) establishment of natural reserves and protection areas for rare birds.

1. Zoological Institute, Academy of Sciences, Leningrad, V-164, USSR

2. Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine. Inada-cho,
Obihiro 080